

((オーディオドラマ_話の流れ))

雨の日、外を眺める男性。

「雨か…」

ポツリつぶやき、窓を閉める。

部屋に戻り、ベッド際に置いた本を手にとって椅子に腰掛ける。

「…ふう、」

雨の音を聞きながら、ゆっくり読書に勤しもうかと思った時…

ドーン！と急な大きな落雷の音。

「うわっ、！」

すると急に電気が消え、部屋は真っ暗に。

「停電…？ツイてないな…」

ため息交じりに立ち上がる男性。

しかしそのとき、地鳴りのような音が聞こえ始める。

だんだん近くなるその音に立ち止まる男性。

「な…なんだ…？」

床や扉の軋み、チカチカとついたり消えたりする電気、誰かの走り回る音など心霊現象がどんどん大きくなる。

「っ…」

気味の悪い現象が続き、息を飲む男性。

恐怖に駆られ、だんだんと息が上がってくる。

「はあっ…はあっ…はあっ…はあっ…！！」

逃げなければ、と部屋を飛び出す男性。

窓を叩く音が聞こえ、反射的に勢いよく開けてしまう。

そこに見えたのは、小さな猫だった。

「ッ…え、？」

「にゃー」

「何だよ…びっくりした…はあ、」

力が抜け、うつむいて座り込む男性。
其の頭上に、女性の声が降りかかる。

「ねえ」

「えっ…？」

ぱっと顔を上げるも、そこにいるのは小さな猫だけ。

「早く起きて」

其の声とともに目覚める。

「ハッ…、！はあ…はあ…」
ベッドの上で勢いよく起き上がり、息を整える男性。
周りを見渡し、最後に穏やかな雨に漸くほっと胸をなでおろして

「なんだ…夢か…」